

令和6年度 京都市予算案 事業概要

文化市民局

事務事業名	文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業		
予算額	3,600 千円 (全体事業費 18,050 千円のうち充実分)	新規・充実・継続の別	充実
担当課	文化芸術都市推進室 文化芸術企画課(222-3119)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など]</p> <p>京都市は、京都駅東部エリアへの京都芸大移転を契機に、当該地域に「文化首都・京都」の新たなシンボルゾーンを創生するとともに、隣接する京都駅東南部エリアにおける文化芸術と若者を基軸とした活性化の取組とも連携しながら、文化芸術によるまちづくりを一層推進することを目指している。</p> <p>これまで、文化芸術と社会的課題に直面する人をつなぐ相談事業、社会的課題を取り扱うアートマネジメント講座及び文化芸術と社会的課題をつなぐ人材の育成等を実施するために、東山 アーティスト・プレイスメント・サービス (HAPS) を支援し、文化芸術の力で共生社会を実現する基盤整備に努めてきた。</p> <p>これらの取組を継続しながら、芸術家や文化芸術関係者、地域住民や市民の皆様をつなげる拠点である HAPS HOUSE において実施される、学生や若手芸術家の展覧会・イベントを支援する。また、本事業をはじめとする HAPS 事業の発信を強化するなど、HAPS HOUSE の拠点機能の充実を図り、文化芸術の力で社会的課題に直面する人の困難を緩和するなど、事業の効果を着実に広げていく。</p>			
<p>[事業概要]</p> <p>【既存事業】 文化芸術による共生社会実現に向け、HAPS が実施する相談事業、普及・啓発事業等を支援する。</p> <p>【充実事業】 HAPS が実施する、以下の事業を支援する。</p> <p>・<u>地域に開かれた運営の充実</u> HAPS HOUSE 内のギャラリーにおいて、京都芸大生をはじめとする学生や若手アーティストの展覧会等を開催する。また、HAPS HOUSE の一部を学生の活動拠点や地域の方が集う場として開放し、交流の場として運営する。</p> <p>・<u>HAPS 事業発信の充実</u> 市内外で活動するアーティストや文化芸術関係者、地域の方等に向け、共生社会実現に向けた事業をはじめ、HAPS 事業に係る冊子を制作し、文化芸術活動の意義等について発信する。</p> <p>・<u>人材育成</u> 文化芸術と社会的課題をつなげる人材を継続的に育成するため、アシスタントコーディネーター（人材育成対象者）を1名採用し、相談事業のディレクターの下で各種事業に従事し、実地訓練を行うとともに、HAPS HOUSE の運営体制の強化につなげる。</p>			
<p>[参 考 (他都市の状況・事業効果など)] 寄付金を活用し、一般財源の負担無しで実施</p>			

令和6年度 京都市予算案 事業概要

文化市民局

事務事業名	アート市場活性化事業		
予算額	7,800 千円 (全体事業費 16,800 千円のうち充実分)	新規・充実・継続の別	充実
担当課	文化芸術都市推進室 文化芸術企画課(222-4200)		
<p>【事業実施に至る経過・背景など】 京都市では、京都の強みである文化力を最大限に活かし、「京都アート・エコシステム」の推進（文化と経済の好循環の創出）に向け、「アート市場活性化に向けた若手芸術家支援」に取り組んでいる。令和5年度は、アート作品の制作・保管等の推進に取り組むとともに、アートイベント会場となるユニークベニユーの情報発信による京都でのイベントの実施促進、若手芸術家等の工房・スタジオ訪問ツアー等を、京都府の「Art Collaboration Kyoto (ACK)」と連携して取り組んだ。 本事業では、こうした事業効果をより高めるため、ACK との連携強化を積極的に図ることにより、大阪・関西万博を見据えた、更なるアート市場の活性化に繋げることを目指す。</p>			
<p>【事業概要】 【既存事業】 オンライン販売サイトを活用し、アート作品を販売することで、有望な若手や障害のある人など、マーケットにつながる芸術家の発掘を図る。 また、市内の宿泊施設・商業施設等での展示・販売を行い、リアルの場においても作品に触れる機会を提供することで、市内施設等への誘客、芸術家等の支援につなげる。</p>			
<p>【充実事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>ユニークベニユー情報冊子「KYOTO UNIQUE VENUES FOR ART」</u> 京都でのアートイベントの開催促進に向け、新規会場を追加するなど「KYOTO UNIQUE VENUES FOR ART」の内容を充実させ、ACK 関係者をはじめとするアート関係者に幅広く周知する。 ・ <u>スタジオビジットツアーの実施</u> 京都の若手アーティスト等の国内外でのアートイベント招聘に向け、その制作現場をギャラリストやキュレーター等の ACK 関係者が訪問するツアーを継続実施する。 ・ <u>アート作品の制作・保管等の推進</u> 京都市内への芸術家等の移住を促進するための呼び水として、アート倉庫兼スタジオを整備する。 ・ <u>ACK との更なる連携</u> 現代美術の大規模アートフェア・ACK と連携した展覧会を、ユニークベニユーにより開催するとともに、京都の若手アーティスト等と ACK に参加する VIP との交流の機会を設け、アーティストの飛躍及びアート市場の活性化につなげる。 			
<p>【参 考（他都市の状況・事業効果など）】</p>			

令和6年度 京都市予算案 事業概要

文化市民局

事務事業名	Discover Traditional Culture of KYOTO ～京の伝統文化ブランディング～		
予算額	10,000 千円	新規・充実・継続の別	新規
担当課	文化芸術都市推進室 文化芸術企画課(222-3119)		
<p>【事業実施に至る経過・背景など】 京都の魅力の象徴であり、心の豊かさや活力、創造力の源泉である伝統文化について、ファン層の固定化、高齢化が進んでおり、観客数のコロナ禍後の回復も十分でない状況にある。 このような状況において、期間中約 350 万人のインバウンド来訪が見込まれる大阪・関西万博は、国内外の新たなファン層を獲得する絶好の機会であるが、誘客のためのノウハウや資金が不足していることから、伝統文化に対する潜在的なニーズを踏まえ、顧客目線での事業構築や鑑賞体験環境整備、広報の充実等、実際に鑑賞・体験いただく機会の創出を通し、伝統文化のブランディング、価値向上を図る。</p>			
<p>【事業概要】 大阪・関西万博が目前に迫る中、約 350 万人のインバウンド来訪が見込まれる万博を契機とし、京都の伝統文化の顧客目線での磨き上げとプロモーションを一体的に推進。「Traditional Culture of KYOTO」のブランド化（大阪・関西万博のレガシー）を目指す。</p> <p>①文化資源の顧客目線での磨き上げ・実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公演鑑賞とお稽古体験などをパッケージにしたツアー ・ インフルエンサー（海外メディア、関西地域のホテルコンシェルジュ、通訳ガイド等）向けファムトリップ <p>②磨き上げた資源のプロモーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 磨き上げた文化資源を、食など魅力的な京都の他の文化コンテンツと共に「Traditional Culture of KYOTO」とパッケージ化し国内及び海外向けにプロモーション <p>③満足度向上に資する持続可能なサービス提供体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多言語でのパンフレット・音声ガイド・チケットサイトなどの環境整備 			
<p>【参 考（他都市の状況・事業効果など）】 インバウンドの伝統文化鑑賞に対するニーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入浴動機のうち伝統文化鑑賞は 54.8% ・ インバウンドの訪問地の 5 位にギオンコーナー（※）がランクイン（4位が金閣寺、6位が嵐山・嵯峨） <p>※ギオンコーナー：京舞、狂言、雅楽、茶道、華道、箏、能といった日本の伝統芸能を約 1 時間で身近に鑑賞できる施設。[出典：2019 京都観光総合調査]</p>			

令和6年度 京都市予算案 事業概要

文化市民局

事務事業名	京都の若者が世界の多彩な才能と交流する仕組みづくり		
予算額	17,000 千円	新規・充実・継続の別	新規
担当課	文化芸術都市推進室 文化芸術企画課(222-3119)		
<p>【事業実施に至る経過・背景など】</p> <p>「世界文化自由都市宣言」に基づき、文化を基軸とした都市経営を進めている本市が、永久に新しい文化都市として持続的に成長するためには、海外からの活力を生かすグローバルな取組が必要である。京都の文化は世界中の人々を惹きつける魅力があり、とりわけ、芸術家や起業家、ゲームエンジニア等のクリエイティブ層は新たな発想を求めて京都を訪れ、思索している。彼らは、市民とは違った目線で京都の魅力を捉えており、その蓄積は京都をさらに成長させる可能性を秘めている。</p> <p>一方で、そのような多彩な才能を持った方々を受け入れ、一定期間滞在し、創作いただくような既存の取組はあるものの、知の交流が持続的に行われる仕組み、ノウハウを持った受け皿や人材が不足しており、地域との交流も十分に行われていない状況である。また、関係者へのヒアリングにより、海外からの受け入れを希望するものの、財源や滞在・制作するためのスペース、コーディネートする人材等のリソース不足から、独力で招聘することが難しいという声もある。文化芸術分野では、平成12年の京都芸術センター開設当初から、アーティスト・イン・レジデンスに取り組み、これまで100名以上のアーティストを受け入れているが、多くの申し込みがある中で選考している。</p> <p>このように、京都への滞在を希望する海外のクリエイティブ層が多数存在することは、一定把握できているものの、現状は交流する機会を逸している状況である。</p>			
<p>【事業概要】</p> <p>大阪・関西万博を契機に、これまで京都芸術センター等が中心となって取り組んできたアーティスト・イン・レジデンスを拡大し、狭義の「アーティスト」ととどまらないクリエイティブな人材を京都に呼び込み、地域とつなげることによって、知的交流を促す仕組みをつくるためのモデル事業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の取組をリサーチし、アーティスト・イン・レジデンスの実績のある施設等のネットワークを形成する。 ・海外からクリエイティブ層を招聘したいが、ノウハウ等が不足しているため躊躇している施設等を、上記ネットワークによりサポートし、受入れを促す。 ・それによって得られるノウハウを共有し、自律的に海外からの人材を受け入れられるような受け皿を増やすための仕組みを検討する。 ・その仕組みにより得られた新たな発想やノウハウを、京都の学生・若者も含めた地域との交流を通じて本市に還元する。 			
<p>【参 考（他都市の状況・事業効果など）】</p> <p>寄付金を活用し、一般財源の負担無しで実施</p>			

令和6年度 京都市予算案 事業概要

文化市民局

事務事業名	美術館の夜間活用による新たな価値創出		
予算額	21,000 千円	新規・充実・継続の別	新規
担当課	文化芸術都市推進室 文化芸術企画課(222-4200)		
<p>【事業実施に至る経過・背景など】</p> <p>世界の主要都市では、宿泊、飲食、交通等、幅広い経済波及効果をもたらす「ナイトタイムエコノミー」の取組が進んでおり、美術館等の文化施設の夜間活用はその主要コンテンツとして確立しているが、日本では継続的な取組となっていない。また、改正博物館法で、美術館相互の連携やネットワーク形成を通じて、様々な社会的課題に対応することが新たに求められている。</p> <p>これらを踏まえ、文化庁補助金（博物館機能強化推進事業）を活用し、京都市京セラ美術館をコアに、京滋の複数の美術館及び関西経済連合会をはじめとする経済界で組織する実行委員会により、美術館の夜間活用を広域で展開し、取組の輪を広げる。若い世代や観光客などの夜間利用を促進することにより、新たな価値を創出し、文化と経済の好循環につなげる。</p>			
<p>【事業概要】</p> <p>本事業に参画する美術館等（京都市京セラ美術館、京都府京都文化博物館及び滋賀県立美術館等）と関西経済連合会等で構成する「ナイトミュージアムKANSAI実行委員会」を立ち上げ、京都市京セラ美術館を中核館として、以下の取組を推進する。</p> <p>① <u>若い世代をターゲットにした夜間開館企画の実施</u> 会社帰りのビジネスパーソン向けの鑑賞教育プログラムや、家族連れでアート鑑賞を楽しむ企画等を実施し、美術館がコミュニティの新たな「場」として、人材育成や地域活性化等において積極的な役割を果たす。</p> <p>② <u>観光客をターゲットにした夜間開館企画の実施</u> 美術館の鑑賞と飲食をセットにした周遊企画や、経済界と連携したプロモーションやコラボ企画等を実施し、大阪・関西万博に伴う需要拡大を見据えたコンテンツ造成に繋げる。</p> <p>③ <u>ネットワークでの知見の共有、調査分析</u> 実行委員会において、事業の実施状況やノウハウ・知見を共有し、国内や海外の先進事例等も含めて調査分析を行うことにより、美術館の夜間活用の持続可能なスタイルを確立する。</p>			
<p>【参 考（他都市の状況・事業効果など）】</p>			

令和6年度 京都市予算案 事業概要

文化市民局

事務事業名	文化の力による被災地支援 ～出張「市民寄席」～		
予算額	2,000 千円	新規・充実・継続の別	新規
担当課	文化芸術都市推進室 文化芸術企画課(222-3119)		
<p>【事業実施に至る経過・背景など】</p> <p>京都市では、令和6年能登半島地震の発災直後から緊急消防援助隊を派遣するなど、継続的に、被災地の支援に取り組んでいる。</p> <p>被災地支援においては、直接的な人命救助や物資の支援等に加え、いわゆる「心の復興」の観点も重要である。被災地に、文化芸術に触れる機会を提供し、被災された方の心を癒す取組を行うことで、被災地の復興を支援していく。</p>			
<p>【事業概要】</p> <p>市民の皆様に上方落語の優れた芸を楽しんでいただけるよう、本市において昭和32年から実施している「市民寄席」。</p> <p>京都市のカウンターパート支援先である石川県七尾市において、幅広い世代に笑いを届ける上方落語の生の迫力と本格的な寄席の雰囲気、令和6年能登半島地震によって被災された方にもお届けし、文化の力によって心の復興を支援する。</p>			
<p>【参 考（他都市の状況・事業効果など）】</p>			

令和6年度 京都市予算案 事業概要

文化市民局

事務事業名	世界遺産「古都京都の文化財」登録30周年記念事業		
予算額	5,000 千円	新規・充実・継続の別	新規
担当課	文化芸術都市推進室 文化財保護課(222-3130)		
<p>【事業実施に至る経過・背景など】 世界遺産「古都京都の文化財（京都市・宇治市・大津市）」が平成6年12月に登録され、令和6年12月に30周年を迎えることから、市民の皆様の世界遺産「古都京都の文化財」の価値を広く再認識いただくことで、これらの文化財を維持・継承していくための機運を高める記念事業を実施する。</p>			
<p>【事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財の価値を広く再認識し、維持・継承の機運を高める機会を創出するため、世界遺産「古都京都の文化財」をはじめとする文化財の保全や活用をテーマとしたイベントを実施するとともに、様々な媒体を活用して、世界遺産「古都京都の文化財」の魅力を発信する。 本市のみならず、17社寺城や関連団体等が実施するイベントについても世界遺産「古都京都の文化財」登録30周年事業に位置付け、京都の文化遺産ホームページ (https://kyoto-bunkaisan.city.kyoto.lg.jp/) 内に特設ページを設けて紹介する。 <p>(参考) [古都京都の文化財] 賀茂別雷神社（上賀茂神社）、賀茂御祖神社（下鴨神社）、教王護国寺（東寺）、清水寺、延暦寺<大津市>、醍醐寺、仁和寺、平等院<宇治市>、宇治上神社<宇治市>、高山寺、西芳寺（苔寺）、天龍寺、鹿苑寺（金閣寺）、慈照寺（銀閣寺）、龍安寺、本願寺（西本願寺）、二条城</p>			
<p>【参 考（他都市の状況・事業効果など）】 「古都京都の文化財」を構成する社寺城が取り組むイベントや文化財の防災などの取組を関連事業と位置付け、価値の再認識や文化財の維持・継承していくための機運を高める。 作成したリーフレットやポスターは、現在、25件登録されている他の世界遺産周年事業においても活用する。</p>			

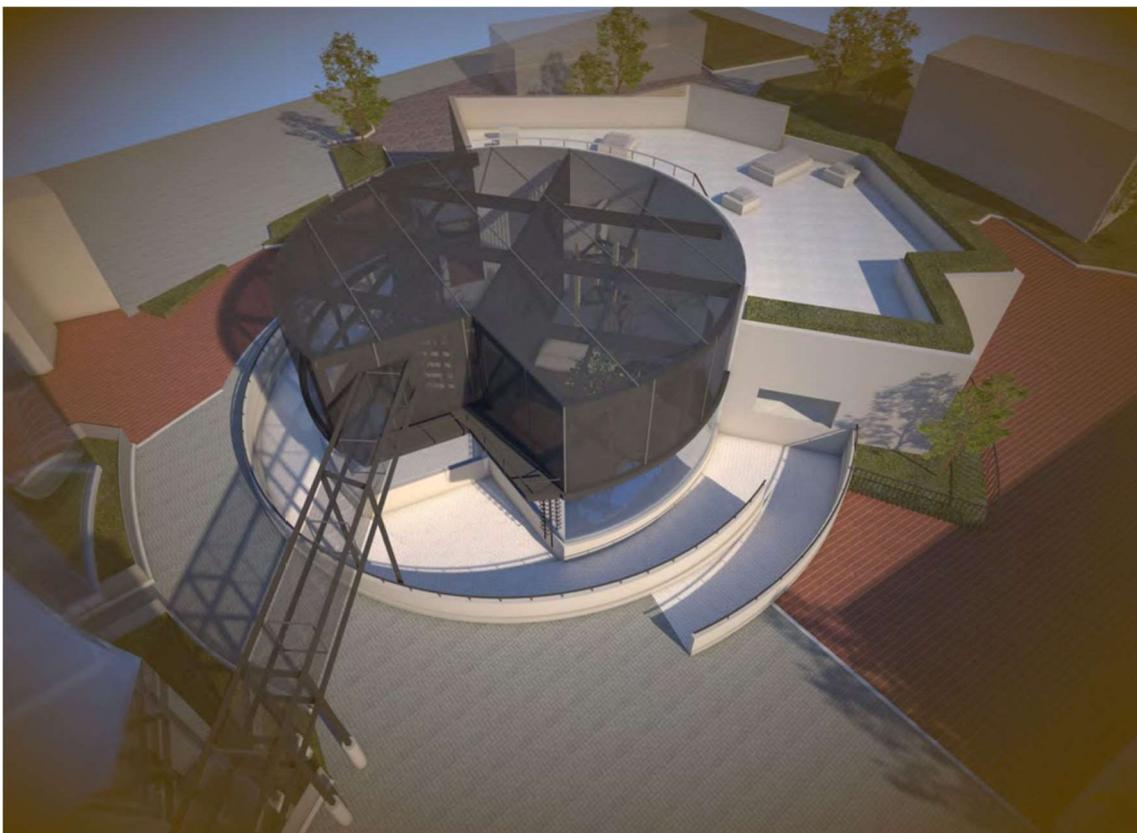
令和6年度 京都市予算案 事業概要

文化市民局

事務事業名	サルワールド再整備事業		
予算額	23,300 千円 (債務負担行為設定あり)	新規・充実・継続の別	継続
担当課	動物園 総務課(771-0210)		
<p>〔事業実施に至る経過・背景など〕 京都市動物園は、明治36(1903)年4月、東京の上野動物園に次いで我が国で2番目に開園した動物園であり、これまでから国内唯一のゴリラの4世代にわたる飼育や、学術研究機関「生き物・学び・研究センター」の設置など、全国に先駆けた様々な取組を行ってきた。 平成21年度からは施設のリニューアルに着手し、都心近くに立地する利便性と動物がお客様に近いという魅力を活かした「近くて楽しい動物園」を掲げて施設の再整備を実施し、平成27年度にグランドオープンを行ったが、サルワールド内のサル島及び類人猿舎は再整備に含まれず、老朽化が進んでいる。</p>			
<p>〔事業概要〕 老朽化が進む「サルワールド」のサル島及び類人猿舎の再整備に向けた実施設計を行う。新たな動物舎では、マンドリル・チンパンジー・シロテテナガザルに加えて、当園が全国に先駆けて繁殖に取り組んでいるゴリラの飼育も行う。 なお、再整備の完了は令和10年度を予定している。</p> <p>1 サル島の解体撤去及び東サル舎の新築 戦前に建造されたサル島は、長年にわたり京都市動物園のシンボルとして来園者に愛されてきたが、アカゲザルの高齢化に伴う屋外展示の中止により、現在は動物舎として活用できていない。世代を超えた市民の思い出の場であるサル島の形状を活かしたかたちで、新たな動物舎を建築し、マンドリル等の飼育に活用する。</p> <p>2 類人猿舎の建て替え 昭和44年に建造された現在の類人猿舎は、屋内施設をはじめ老朽化が進んでいるため、平家だった建物を新たに2階建ての動物舎として建て替え、樹上生活を送る霊長類の生態を間近に観察できる新棟を建設する。新たな動物舎では、チンパンジー・シロテテナガザルに加えて、当園が全国に先駆けて繁殖に取り組んでいるゴリラの飼育にも活用する。</p> <p>3 サルワールド再整備事業実施設計に係る経費 サルワールド再整備事業に係る委託料(実施設計)については、令和6年度から7年度までの期間で債務負担行為を設定している(令和7年度:54,148千円)。</p>			
<p>〔参考(他都市の状況・事業効果など)〕 東サル舎及び新類人猿舎の基本計画時点イメージ図は、別紙のとおり</p>			

東サル舎イメージ図

南西俯瞰



新類人猿舎イメージ図

南西俯瞰



令和6年度 京都市予算案 事業概要

文化市民局

事務事業名	京都ならではの歴史博物館の機能の検討(考古資料館耐震改修含む)		
予算額	7,000 千円	新規・充実・継続の別	新規
担当課	文化芸術都市推進室 文化財保護課(222-3130)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など]</p> <p>令和4年4月の博物館法改正により、これからの博物館の役割として、教育や文化の域を超えて、まちづくり、観光、福祉、国際交流といった様々な分野との連携による地域社会への貢献が期待されている。</p> <p>そのような中、本市の博物館機能を担っている考古資料館及び歴史資料館は、博物館類似施設(※)にとどまっており、博物館機能を十分発揮できていないほか、施設の老朽化や狭あい化、耐震性能等の問題が喫緊の課題となっている。</p> <p>さらに、本市の埋蔵文化財の収蔵容量は95.3%に達しており、文化財を適切に保管管理するための収蔵機能の整備も急務となっている。</p> <p>そこで、博物館機能の在り方、考古資料館をはじめとする市有施設の老朽化、埋蔵文化財の収蔵容量の解消について、それぞれの課題抽出を行うとともに、他都市における博物館機能の事例を収集し、京都ならではの歴史博物館機能の構築を目指す。</p> <p>※ 博物館と同種の事業を行う施設(登録又は指定を受けていないもの)</p>			
<p>[事業概要]</p> <p>京都に求められる博物館機能について、周辺課題と合わせた整理、検討、他都市の事例調査を行うなど、京都ならではの歴史博物館機能の在り方を検討するうえでの基礎調査を行う。</p>			
<p>[参 考 (他都市の状況・事業効果など)]</p>			

令和6年度 京都市予算案 事業概要

文化市民局

事務事業名	京都コンサートホール魅力向上事業 (大規模改修基本設計)		
予 算 額	39,012 千円 (債務負担行為設定あり)	新規・充実・継続の別	新規
担 当 課	文化芸術都市推進室 文化芸術企画課(222-3119)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など]</p> <p>京都コンサートホールは、平成7年、世界文化自由都市宣言を具体的に推進していくための事業として建設された「京都が誇るクラシック音楽の殿堂」であり、京都市交響楽団の本拠地でもある。これまでに、京都市交響楽団をはじめとした国内外のオーケストラ等の公演を通じて市民の皆様が高水準の音楽を提供してきたほか、次代を担う若き芸術家の発表や、世代を超えた交流の場としての役割を果たしてきた。</p> <p>一方、開館から28年が経過し、施設・設備の老朽化等が進んでおり、機能維持や安全性向上、長寿命化に向けた対応が求められている。また、大規模改修に加えて、京都コンサートホールの魅力を一層高めることで、「世界に誇る文化と憩いに包まれた交流エリア」を目指す北山エリアのまちづくりに、相乗効果をもたらすことが期待される。</p>			
<p>[事業概要]</p> <p>京都コンサートホールがより親しまれ、愛されるホールとなり、北山エリアが「世界に誇る文化と憩いに包まれた交流エリア」となることに資する取組を検討する。</p> <p>大規模改修は、西日本最大級を誇るパイプオルガンのオーバーホールに加え、施設運営を行いながらの改修が困難な舞台設備・電気設備・機械設備の更新、特定天井の改修、エレベーターの新設、女性トイレの増設等を実施予定であり、必要な基本設計を実施する。</p> <p>なお、令和7年度までの期間で債務負担行為(170,000千円)を設定している。</p>			
<p>[参 考 (他都市の状況・事業効果など)]</p>			

令和6年度 京都市予算案 事業概要

文化市民局

事務事業名	南区総合庁舎再整備のあり方に係る区民との対話等事業		
予算額	8,000 千円	新規・充実・継続の別	継続
担当課	地域自治推進室 区政推進担当(222-3048)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など]</p> <p>昭和41年度竣工の南区総合庁舎については、本市区役所・支所の庁舎の中で最も建築年次が古く、平成30年度に南区のまちづくりの基幹会議である「南区まちづくり推進会議」の部会において検討した内容を南区基本計画に反映するなど、新総合庁舎の整備に向けて、再整備のあり方を検討してきた。</p> <p>令和5年度は、「時代に即した区庁舎整備のあり方検討調査（南区役所）」を実施し、現在の南区総合庁舎敷地の活用の可能性、旧健康増進センターの建物の利活用の可能性、民間ビルや民有地への仮移転の可能性などについて、民間事業者からアイデアを募った。</p>			
<p>[事業概要]</p> <p>令和5年度の調査結果を踏まえ、令和6年度は、区民ワークショップの開催等により、「未来の南区役所像」「現区役所エリアに求める都市機能」などについて、区民の皆様との対話を深める。</p> <p>また、本市若手職員による検討チームを設置し、他都市の取組事例を調査するとともに、行政サービスを提供する側の視点から、未来の区役所像を検討する。</p>			
<p>[参 考（他都市の状況・事業効果など）]</p>			

令和6年度 京都市予算案 事業概要

文化市民局

事務事業名	体育振興会及びスポーツ推進委員によるスポーツ活動の更なる活性化		
予算額	5,000 千円	新規・充実・継続の別	新規
担当課	市民スポーツ振興室(222-3137)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など]</p> <p>体育振興会及びスポーツ推進委員は、地域におけるスポーツ振興の原動力として大きな役割を果たすとともに、地域コミュニティの活性化に大きく寄与してきた。しかしながら、近年、地域のスポーツ活動への参加者が減少傾向にある。</p> <p>一方で、近年、少子長寿化の進展をはじめ体育振興会活動を取り巻く環境は大きく変化してきており、スポーツ自体も勝ち負けを競うのではなく、コミュニケーションの活性化や自己充実を楽しむなど、その目的が多様化してきている。こうした状況の下、今後は、世代を超えコミュニケーションの活性化につながる様、子どもから大人まで誰もが楽しめるニュースポーツの普及を進めるとともに、時代に応じた活動への見直しを一層進め、若者、子育て層など新たな層を取り込み、参加者の拡大、活動の活性化を図っていく必要がある。また、地域スポーツを支えるスポーツ推進委員の担い手が減少しており、担い手確保に向けて取り組む必要がある。</p>			
<p>[事業概要]</p> <p>1. ニュースポーツ導入による地域スポーツの振興 親子や多世代の参加促進を目的に、学区民体育祭や市民スポーツフェスティバル等におけるニュースポーツ体験会や交流大会の開催を支援する。また、スポーツ推進委員による主体的な大会運営に向け、関係団体から講師を招いて講習会を開催する。</p> <p>2. 体育振興会事業等の発信 親子や多世代の参加促進やスポーツ推進委員の担い手の確保のため、体育振興会事業等の手引きの作成やSNS等による発信強化を支援する。</p> <p>3. スポーツ推進委員の報酬見直し スポーツ推進委員のモチベーションアップに向け、ニュースポーツ大会の企画運営などの役割を強化するとともに、報酬のベースアップを行う。</p>			
<p>[参 考 (他都市の状況・事業効果など)]</p>			

令和6年度 京都市予算案 事業概要

文化市民局

事務事業名	公民連携型スポーツ活動支援事業		
予算額	20,000 千円	新規・充実・継続の別	新規
担当課	市民スポーツ振興室(222-3134)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など]</p> <p>スポーツを通じた、健康で心豊かな暮らし、人と人とのつながり、まちの魅力向上を目指して、市民スポーツ振興の取組を進めている中、これまでは、本市が直接スポーツ振興事業を実施したり、本市以外の主体（体育振興会、競技団体など）が実施する取組を支援することで、スポーツ振興を図ってきた。</p> <p>一方、本市の財源や人的資源にも限りがある中、今後更なる市民スポーツ振興を図るに当たり、これまでの取組に加え、公民の適切な役割分担の下、財源の確保も含め、民間主導による積極的な取組をサポートする仕組みを構築する必要がある。</p>			
<p>[事業概要]</p> <p>スポーツ振興を目的として、京都市内において、京都市民を対象に含んでスポーツに係る事業を実施するスポーツ関係団体に対し、当該事業の趣旨・目的に賛同いただいた個人・企業等から、本市へ寄付されるふるさと納税等を財源として、本市が事業費を支援することで、更なる市民スポーツの振興を図る。</p> <p>なお、補助金については、支援者から京都市が寄付を受け、本市が認定した事業者に対して、事業に対する寄付金総額の7割を上限に事業費の範囲内で交付する。</p> <p>また、交付した補助金を除く寄付金については、本市において、幅広く市民スポーツの振興に資する事業に活用する。</p>			
<pre> graph TD A[スポーツ団体] -- ①事業の提案 --> B[京都市] B -- ②事業を認定 --> A A -- ③認定事業への支援依頼 --> C[支援者
(個人・企業)] C -- ④応援したい事業に寄付 --> B B -- ⑤寄付金を財源として事業費を助成 --> A </pre>			
[参 考 (他都市の状況・事業効果など)]			

令和6年度 京都市予算案 事業概要

文化市民局

事務事業名	西京極総合運動公園民間活力導入検討 (整備運営・活用方針案策定)		
予算額	23,000 千円	新規・充実・継続の別	新規
担当課	市民スポーツ振興室(222-3135)		
<p>【事業実施に至る経過・背景など】</p> <p>西京極総合運動公園は、府内でも屈指の規模のスポーツ施設が立地し、各競技大会・公式戦等で多くの方々に御利用いただいております。市民のみならず、府民のスポーツ振興のため、今後もその機能・役割維持が必要不可欠な施設である。一方、各施設の老朽化が進む中、今後、多額の経費が必要な大規模改修への対応が大きな課題である。</p> <p>そこで、府下随一の総合運動公園として、本市負担を抑えつつ、その機能の維持向上を図ってだけでなく、スポーツ以外での多面的な利活用等、地域活性化に資する新たな魅力向上や活用を図ることを目的に、民間事業者等に対するサウンディング調査等を通じて、施設の改修と管理運営を合わせたPFI等の民間活力導入可能性調査を令和4年度から5年度にかけて行ってきた。</p> <p>なお、令和5年度の調査では、西京極総合運動公園と近接し、一体で管理している市内随一のテニス施設である西院公園についても、西京極とともに競技大会用施設として不可欠であり、賑わい創出や地域活性化に資する新たな魅力向上や活用が図れる可能性があることから新たに対象に加え、更なる魅力向上等について広く民間事業者の意向把握を行った。</p>			
<p>【事業概要】</p> <p>令和4・5年度の導入可能性調査結果を踏まえ、大規模スポーツ施設の充実・維持にとどまらず、子育て環境充実や若者に対する魅力向上といった運動公園周辺のまちづくりにも資するよう、公園利用者数やアンケート等の調査・検討を行うとともに、改修内容や事業費等の事業スキームの再整理を行う。また、「西京極総合運動公園整備運営方針案」を取りまとめ、今後の整備に向けた準備を進める。</p>			
<p>【参 考 (他都市の状況・事業効果など)】</p>			